

新潟高等学校理数特講2011を開講

歯学部副学部長・学務委員長 小野和宏

新潟大学歯学部では、2008年度より新潟高等学校と協力して、「理数特講」を開講しています。この授業は、新潟県の医歯学の最先端にある大学研究施設を高校生が訪問し、そこでの体験を通して学習に対する意識を高め、進路決定に役立てることを目的としています。今年度は8月2日に開講し、新潟高等学校理数科の生徒59名と教諭3名が参加しました。

新潟大学医歯学総合病院副院長の興地教授の挨拶に続き、「噛むこと・嚥むこと・おいしく食べる」と題した口腔生理学分野の山村教授による模擬講義、「摂食嚥下障害とその治療」と題した摂食・嚥下リハビリテーション学分野の井上教授による模擬講義をうけ、高校生は歯科医師に対する認識を新たにしました。歯科医療というと「虫歯を削って詰め物をする」「歯がなくなったところに入れ歯を作る」というイメージが強かったようですが、現代の超高齢社会において歯科医師の仕事は多岐にわたり、人々がおいしく食べ、家族や友達と会話を楽しみながら生きがいある人生をおくる上で、歯科医療はとても大切なものであると感じたようです。また、講義だけでなく、シ

ミュレーターを使ってレジン歯を切削したり、歯科用印象材と石膏で自分の指の模型を作ったりと、高校生は楽しく有意義な一日を過ごしました。授業の最後には、新潟高等学校を卒業した歯学部の教員および学生と交流をもち、自分の将来と重ね合わせ、歯学部での大学生活を想像したことでしょう。

新潟高等学校理数科の生徒の多くが医学部への進学を希望しており、歯学を志すものは少ないようです。授業アンケートの結果をみると、前述したように、歯科医師の仕事の一面だけを歯科医療のすべてと理解している生徒がほとんどで、今回の授業ではじめて歯科医療の重要性に気づいたとの意見も多く、私たち大学関係者は高校生を始めとした若者に正しく歯学・歯科医療の魅力を伝えてきたのかと反省させられました。歯科医師過剰やワーキングプアなど大衆うけを狙ったマスコミ報道がある中で、多面的で正確な情報を発信すること、またそれを通して若者のキャリアデザインに貢献することの大切さを実感した一日でもありました。





歯学部オープンキャンパスに過去最高の参加者

入試実施委員長・福祉学分野教授 大内章嗣

歯学部オープンキャンパスが8月8日(月)に開催されました。昨年も、歯学部講堂の既設の座席に入りきれないほどの参加者で、急遽、折りたたみイスを搬入して対応しましたが、今年は昨年を更に1割以上上回り、過去最高となる209人もの生徒さん、保護者の皆様にご参加頂きました。全国的に歯学部・歯科大学志願者数の減少が取りざたされている中で、このように多数のご参加が頂けたことは、入試実施委員長の立場として、熱意あふれる優秀な学生の確保に繋がるものとして心強く感じるとともに、新潟大学歯学部の取り組みが広く評価を受けていることの現れでもあると思います。ただ、階段通路や教壇脇のスペースにまでパイプイスを並べて座っていただくような状況で、参加者のみなさんには大変申し訳ないことをしました。

全国歯科大学・歯学部のなかで本学がトップレベルの評価を受けている理由などを含めた前田学部長の挨拶でオープンキャンパスのプログラムはスタートしました。小野学務委員長の学部紹介、そして入試実施委員長の私からは入試概要の説明を行いました。皆さんメモをとりながら真剣な表情で聞いていらっしゃいました。

続いて、齋藤功教授から「歯学・歯科医療の特殊性」と題した模擬講義が行われました。矯正治療経過の動画も交えた講義に生徒さん達は興味深そうな様子で聞き入っていました。

その後、今回からの新企画となる卒業生による学部紹介として、本学大学院生の大墨竜也先生(歯学科OB)と新潟県福祉保健部健康対策課の山下萌絵さん(口腔生命福祉学科OG)から話をしてもらいました。それぞれ入学時の志望動機や学生生活、そして歯学部で学んだことが現在の自分にどのように役立っているかなどについて、高校生のみなさんにとってより身近な立場から判りやすく、本音も交えて説明してくれ、事後のアンケートでも大変好評でした。

午後からは吉江教授、齋藤功教授、小野教授の引率のもと3班に分かれ、4階実習室での歯の切削体験や病院見学を行いました。う蝕学分野の先生方の丁寧な指導・介助のもと、実際にマネキンの歯を削ってみる体験はなかなか経験できないだけに、みなさん大変強い印象を残したようです。

最後に興地副病院長も加わって頂き、何でも質問コーナーとして参加者から質問を受け付けました。最初は遠慮がちでしたが、小論文、面接試験



前田学部長の挨拶



講堂を埋めつくした参加者

の実施方法など入試の事から、地震などの災害時の大学の対応、専門課程での学習に必要な知識についてなど、幅広い質問が出され、ひとつひとつに丁寧な解答があり、参加者のみなさんも納得している様子でした。

大学全入時代を迎えるなか、学生確保対策としてのオープンキャンパスの重要性に異論はありませんが、保護者の方や県外からの参加者も多くなっており、歯学部の活動を広くPRする場としても重要な機会なのではないかと感じました。



真剣な表情で学部紹介を聞く参加者



齋藤功教授による模擬講義



新企画：卒業生による学部紹介①



新企画：卒業生による学部紹介②



うまく削れるかな？ 歯の切削体験